

洛窓会東京支部 活動状況

2016年10月15日
H28年度 東京支部代表幹事
古河電気工業 宮崎 (55回卒)

平成28年度 東京支部総会報告

1. 開催状況

日時： 2016年6月23日(木)

第一部 総会・講演会 16:00～18:00

第二部 懇親会 18:15～20:00

場所： 泉ガーデンタワー (東京都港区六本木1-6-1)

出席者数： 総会 61名、懇親会 67名、全体 68名

京都からご出席いただいた以下の先生方を含む。

東谷 公 京都大学名誉教授・洛窓会会長

前 一廣 京都大学教授 (2016年度専攻長)

田門 肇 京都大学教授

長谷部 伸治 京都大学教授

2. 総会

1) 洛窓会東京支部長挨拶

サントリーホールディングス(株) 専務取締役 (36回卒) 小嶋 幸次 様

総会開会の挨拶とともに、本年度総会参加への謝意を述べられた。

『(ちょうど同日実施の)英国EU離脱是非を問う国民投票に象徴されるように、グローバル経済は視界不良が続いている。日本企業はものづくりの力の向上・イノベーションの加速が急務であり、化学工学の果たすべき役割は大きい。今年度初の取り組みとして「話題提供」の時間を設けており、洛窓会の場を異業種交流・イノベーション創出の場として欲しい』旨を述べられた。



2) 講演会

①「神戸製鋼のエンジニアリング事業」

(株)神戸製鋼所 常務執行役員 (41回卒) 森崎 計人 様



神戸製鋼グループの中期経営計画や、ご担当されるエンジニアリングセグメントについて、自身が新入社員時代に携わったマレーシア肥料プラント立ち上げのお話を交えながら紹介された。

「素材」「機械」「電力」を3本柱として、原子力プラントや鉄道交通システム、水処理設備や水素ステーションなど、「製鋼」の社名からは想像できないような幅広いエンジニアリング事業を展開している。特に印象に残ったのはCWD(遺棄化学兵器処理)プロジェクトの話。旧日本軍が第二次世界大戦後に中国内に残してきた化学兵器を独自の制御爆破技術で無害化するというもの。大変社会的意義のあるプロジェクトだが、「当社が悪いことしたわけではないのに、どうしてもネガティブに聞こえてしまうのであまり話したことがなかった。今回、同窓会ということで特別に紹介した」そうだ。改めて化学工学の奥深さを認識させられた。

② 「分離工学に携わって 40 年」

京都大学大学院工学研究科 化学工学専攻 (34 回卒) 田門 肇 教授

今年度定年を迎えられる田門先生より、これまでの研究活動を振り返った様々なトピックスをご講演いただいた。

まず冒頭に、桐榮先生・岡崎先生時代の分離工学研究室と比較して、田門先生の研究対象は物理化学・材料科学の割合が増えてきたこと、さらにその傾向はほかの研究室でも同様であることを、Web of Science のデータを根拠に示された。

その後、これまでに携わった研究の中でも特に不思議で興味深かった事例について、詳細なデータや写真を交えてご紹介いただいた。凍結モルフォロジー制御、炭化物の構造攪乱や細孔の誘起は、作られた構造が面白いだけでなく、骨補填材や廃棄物由来の活性炭製造への応用など、工業的にも意義深いものである。またクラスターモデルの分子軌道計算から吸着不可逆性を定量的に評価する手法はアカデミックの真骨頂だと感じた。

最後にこれら取り組みを「分離材開発」と「分離場創生」という 2 つの観点からまとめ、講演を終えられた。



3) 京都大学と教室の近況

京都大学大学院工学研究科 化学工学専攻 (40 回卒) 前一廣 教授



京都大学と化学工学教室の現状について、様々な大学ランキングや京大の最新動向（学域・学系制）、入試制度、工業化学科のコース配属状況、就職状況といった観点から詳細な説明をいただいた。トピックスとしては、教室創立 75 周年記念式典開催 (2015/10/24)、記念誌刊行（今年度）、2016 年春の叙勲受賞（原田先生、萩野先生に瑞宝中綬章）などがあった。

また、産業競争力懇談会 (COCN) の意見書を引きながら、化学工学は「絶滅危惧分野」であり、教員確保のため大学評価制度を再構築すべきであること、基礎学力を有した学生の育成にとりくむことなどが急務であるとして、文部科学省の理工系人材育成戦略を紹介いただいた。前先生としては「俯瞰力のないお偉い先生方が政策を考えていることも問題」と捉えられており、「個人的提案」として産学共同研究講座・寄付講座を通じた次世代産業人材育成・オープンイノベーション推進の仕組みを示された。

「往路の新幹線で話す内容考えた」と仰ってはいたが、とてもそのようには感じられない、化学工学に対する深い愛と憂慮の滲む講演であった。

4) 話題提供「最新のレーザー技術紹介」

阪本システムズ(株) 代表取締役社長 (42回卒) 阪本 俊幸 様

東大理学系研究科(五神・湯本・吉岡研究室)が中心となって活動している「コヒーレントフォノン技術によるイノベーション拠点」の紹介。

レーザー加工の分野では高出力化・超短パルス化が進み、その結果、金属・セラミック材料の3Dプリンティング技術、化学反応中の電子挙動観察、超微細構造物の製造・マイクロ流路作成など、様々な応用事例が報告されている。

レーザーという物理の最先端技術と化学工学とが交わることで新たなイノベーション創出を予感させる技術紹介であった。



総会の様子

3. 懇親会

東谷 公 会長 : 挨拶ならびに乾杯
折田 伸昭 : 代表幹事会社挨拶
堀 嘉成 様 : 次回代表幹事会社挨拶

洛窓会会長の東谷先生のご挨拶・乾杯のご発声で開会した。暫く歓談の後、幹事会社代表として古河電工（株）の折田から挨拶し、さらに次回幹事会社（株）日立製作所 堀 嘉成 様よりご挨拶をいただいた。最後に恒例の琵琶湖周航の歌を合唱し、お開きとした。



洛窓会会長 東谷様



古河電工（株）折田



（株）日立製作所 堀様



懇親会の様子



肩を組んで合唱

4. 総評

今年度は総会 61 名、懇親会 67 名、全体 68 名の方々にご参加いただいた。一昨年・昨年と 100 名前後の参加者があったのと比べると減少してしまったことは幹事として残念至極である。本部名簿システムによる一斉電子メール案内や、出席予定者名簿を中間報告として公開するなど、これまでに東京支部で蓄積したノウハウを駆使し、さらに幹事会社の洛窓会員を通じて知り合いに個別に出席依頼をするなど努力はしたものの、当日に急遽ご都合つかなくなってしまった方も複数あり、前述の数字にとどまった。要因としては①日程が木曜日となってしまったこと（しかし一昨年も木曜だったが 100 名超）、②2 年ぶりに会費が値上げとなってしまったこと（7000 円⇒9000 円）などが考えられる。

今年度の新たな取り組みとして「話題提供」の時間を設けたことについて、アンケートでその

評価を尋ねた。その結果、91%の方が「次年度以降も継続してもよい」との評価であった。「新技術・異分野の話が聞けて良かった」「普段聞けない話が聞けて面白かった」との好意的なコメントが多く寄せられた。

運営上では、総会の会場のフロア案内（7階）が事前の連絡の中に含まれておらず、場所が分からなかった、というお叱りを頂戴した。この場をお借りしてお詫び申し上げます。

これらアンケート結果も踏まえ、来年度以降も、魅力的な講演内容、本部HPや名簿システム利用での宣伝活動、参加費の工夫などで、より多くの方々に参加していただけるような支部総会としていきたい。

5. 会計報告

支部総会・懇親会会場に関して、2年ぶりに会場を泉ガーデンタワー・住友会館に戻して開催した。予算的にかなり厳しくなる見込みであったため、会費を9,000円に設定した。当日は住友化学グループ殿の計らいで懇親会費を圧縮できた（具体的には、料理注文数を予約人数ではなく実際の参加人数で計算していただいた）こともあり、本部助成金と合わせて何とか黒字となった。例年会場選定が会計収支を大きく左右するため、幹事は様々な情報を収集し黒字運営に努めたい。

6. 最後に

支部総会開催にあたり、遠路ご参加を賜りました東谷先生、田門先生、前先生、長谷部先生には、心よりお礼を申し上げます。また、本部庶務幹事の長嶺先生には支部総会開催情報のHPへの掲載で、会計幹事の渡邊先生からは支部助成金関連で、それぞれ大変お世話になりました。さらに、山本先生からは総会当日配布用に教室パンフレットをご準備・発送いただきました。

総会の準備から当日まで、支部幹事会社代表の方々には多大なご助力・アドバイスを頂戴しました。この場をお借りして感謝申し上げます。

以上